株式会社ジェイコム東京 西エリア局
放送番組審議会 議事録

令和元年(2019年)度 株式会社ジェイコム東京 西エリア局 放送番組審議会は、
2020年3月30日(月)ジェイコム東京 西エリア局にて開催された。

【放送番組審議会委員】

渡邊 嘉二郎 様

武田 千香 様

柴内 康文 様

梶田 斉邦 様

天野 文隆 様(ご欠席)

新井 宏伸 様(ご欠席)

(順不同)

事業者側から J:COM チャンネル (11ch) と J:COM テレビ (10ch) について報告があった。

【質疑応答・意見交換】 進行：渡邊会長 武田副会長

■デイリーニュースについて

委員

東京都のニュースであれば他の民放等でも取り上げられるが、ケーブルテレビなのでもっと地域に密着した情報が欲しい。

噂のレベルでニュースに取上げることは出来ないかもしれないが、何か噂があった時には、それを信じ確かめて安心させるなど期待したい。

東京都で緊急に記者会見を行われる時こそ、地域にプラスになる情報があればいち早くお届けするなど取り組みが必要だと思う。

新型コロナウイルスのニュースだけではなく、明るいニュースもやっていかななくてはならないのでバランスは必要である。

委員

デイリーニュースは自治体のイベントや街の様子を伝えており、番組を見ることで改めて周り

の自治体でこういったイベントをやっているのかなという事を知るきっかけとなっている。
併せて自分の町で毎年当たり前に行われていた事が実は特別な事だったり、また自分の町を改めて知るきっかけになるという事で、それが町の愛着であったり町に対するプライドの醸成、この町に住んでいて良かったと改めて思える様なきっかけになると思っており大変感謝している。
例えば新型コロナウイルスに関しての情報後が数分後、数時間後には古い情報になっていたりするため、デイリーニュース生放送後の再放送を視聴者が見たタイミングによっては混乱してしまう方もいるかもしれないので、その辺の取り扱いには気を付けていただきたい。
デイリーニュースそのものに関しては、日々取材されている様子や、その大変さも知っており、そのご苦勞が地元の方に色んな形で還元されていると思うので引き続きいただきたい

委員

長々と散歩は本当に面白い取り組みだと思う、又くらやみ祭りも VR で YouTube 配信され新しい事に取り組まれている

地域チャンネルの在り方として色々な事に取り組まれていると思うが、いくつか質問や感じた事は、J:COM チャンネルはチャンネルの肝だと思うが、編成の全体像、どんな風にタイムテーブルが出来ているかが解るとありがたい。

質問として、“ど・ろーかるアプリ”での配信等、本当はケーブルで見ほしいのかも知れないが全部カバーされているのか、“ど・ろーかるアプリ”で流すものと放送しているものと選んでいるか。新型コロナウイルスの影響で休校となり小金井市立小金井第一小学校の先生方から生徒へ呼びかけた放送は NHK などでもやっているようだが、こういう形で放送されているという事を初めて知って本当に良い取り組みをされている。

一方でコロナ問題として情報過多の側面もある。毎日テレビでもインターネットでも様々流れているが、それに対して地域のチャンネルが差別化・切り分けと、取り組みをしなくてはいけないと思うが、こういった形でそういったものを意識されているか。

もう一つは今年度振り返ると台風の被害は本当に凄かったと思う、エリア内でも小金井市や国分寺市は避難勧告が強いものを出されていたが、そういった時に特別編成や J:COM としての取り組みを聞きたい。

事業者

番組編成は再放送が多い編成となっている。“いつも同じものやっている”と言われるのが昔からある。番組も基本的に”週一更新“、”月 2 回更新“、”月 1 回更新“、“毎日更新”となっている。毎日更新はデイリーニュースしかなく、多くは早くて週一更新なのでいつも流しているのが同じにならない様にチームで編成を組んでいる。

又、番組ごとに視聴対象者というものを設けています。“この番組はこの時間に編成したら見て

もらえる”など意識して編成している。年度毎に方針は変わっていくため編成チームと考えている。

新型コロナウイルスに関する情報の差別化という事で私たちが一番悩んでいる事である。大枠の情報は民放各社、NHKでもやっており、そういった全国的なニュースをいかに地域に落とし込むかという事を主眼に行っている。例えば、東京都から発表があった内容はそれでお伝えするが、それを受けて各地域がどうなっているか今はやっている。

台風の安心安全情報は、今年度は主に2つの台風が接近して被害が出たというところ、特に10月の19号はこのエリアも非常に避難勧告を受け被害も出た。番組では台風の2、3日前から注意喚起を行っている。又、今年度は都内に8つの制作事務所があるが“区部”、“市部”と分けて情報を集めてお届けした。台風の安心安全情報は立川市に多摩事務所があり、ここに各事務所からスタッフが集まり特別番組という形で各地域の情報を集約して放送する形をとった。23区に関しては中野区の事務所に集約するという形をとった。地域によって“区民”、“市民”の方の欲しい情報が違うというのを痛感した。例えば川が隣接している地域は川の水位情報が欲しい、逆に高台では土砂崩れの情報が欲しい。地域に合った情報を如何に発信するかアンテナを張り体制を組み直し来年度特に力を入れていこうと思う。

今年に関して3市の避難勧告は府中市の多摩川の氾濫があり、小金井市と国分寺市の雨は酷かったが、避難勧告までは出ていなかった。特別番組を通じて多摩地区全般の番組を扱うと同時に普段の放送時はL字のテロップを流し、その都度気象庁や行政から発信する情報もテロップで情報発信ができる体制は組んでいる。

“ど・ろーかるアプリ”に関してはテレビ番組の全てを配信していない。デイリーニュースは毎日LIVEでお届けしている。特番は基本的にLIVE配信が出来るようになっておりアーカイブもある。直近では小中学校全国の吹奏楽の課題曲を紹介しており番組ではないものも放送している。アーカイブへの判断は番組毎に行っている。

防災関連の情報で地震が起きた時に“ど・ろーかるアプリ”では地震の情報がプッシュ通知として“ど・ろーかるアプリ”がある方には届く。更に周辺のライブカメラの情報も提供しており地震火災等も直ぐに確認ができる。

ライブカメラに関しては西東京市のスカイタワー、三鷹駅前カメラ、武蔵境駅の南口等、河川の近くや、他にも多く設置しており、最近では首都高カメラの様子も出している。

委員

選挙当選の万歳に関して放送局における中立性の問題など難しいところはあると思うが、地域というのは選挙が終わったらノーサイドだと思う。選挙中は色々言っても後は仲良くやっぴかなくてはいけない事で、選挙が終わったら仲良くやろうよというイメージが何処かで作れないか。全国の衆議院参議院の選挙は万歳して終わるが、地域の選挙の場合はそれで終わりではなく又一緒にやっぴかなくてはいけないと思う。

今回の新型コロナウイルスの件は、まさにJ:COMの存在意義が凄く問われている。全国版のニ

ユースは嫌という程見ているが、地域の方がこの状況の中でどういう情報が欲しいのか、例えば手洗いしなければならぬ等色んな事があると思う。マスク売っている情報はないかもしれないが欲しい情報を何かの格好で提供する。マスクの作り方教室、手作りマスクをどう作るか、そんなのもあって良いかなと思う。新聞社がマスクの型紙を出して家内が喜んでいて、マスク不足で困っているのであれば、JCOMさんで5分、3分程の番組を作って流すのも良いかと思う。要するにJ:COMでしか出来ない番組をこのコロナの問題で作れば今後の財産になる。

■来年度の方針に関して

委員

地域の事をイベントお祭り、地域の特産等取上げて良いと思う。防災でもし地域に不安が生じたらJ:COMを点けるなど。

それから地域をこれからどうしていくかを考えてみた時に、例えば“噂の東京マガジン”の様な番組で地域の課題を批判的に取り上げるのではなく、皆で一緒に考えていく。そうした身近なものだと思う。身近な所でどうしたら良いのだろうという時に頼りになるのがJ:COMになっていくと良いと思う。課題解決型、市民、地域の人に参加するようなものを作ってほしい。

委員

デイリーニュースは特にオンタイムで情報出しているが、放送管轄の地域毎に違う魅力を知る事が出来ると良い。せっかく制作拠点毎に同じような番組であれば、制作拠点の8エリアの番組を日替わりで見せるとか色んな地域の情報を知るきっかけになると思う。一週間分の放送を出すだけでもエリアの中で今週何があったかというおさらいするきっかけにもなる。

出来ることなら他局のエリアの放送も、今住んでいるエリアの方に見てもらおう事で住んでいる街を考えるきっかけになる。

委員

現在、勿論良い事にも取り組んでいて、それを今後も継続してほしいが、今は不安な情勢をどうやって地域市民の皆さんに理解したり安心したり出来るかと伝えていくかが大事。お店の方が努力していたり飲食店の方が気を付けて被害が広がらずお客様が安心して来られるよう工夫もされていると思うので、実際の地域で良く知っている方々やお店が、今こんな所に取り組んでいる事や行政の方などの頑張りを伝えるなど、皆さんが努力しているのが見えたり皆さんが頑張っていると伝わる事があれば良いと思う。又、地域の方の安心安全の醸成が出来ればと思うので意識して番組を制作してほしい。